派遣報告書

2014 年 4 月 25 日

氏名: 説田英香
派遣先: ドイツ連邦共和国　フライブルク大学
派遣期間: 2013 年 8 月 1 日〜2014 年 3 月 31 日

■　研究概要

報告者は上記期間中、フライブルク大学文学部近現代史にて、博士論文執筆およびその為に必要となる史料収集を行った。報告者は、共同学位の取得を前提とし、東京外国語大学とフライブルク大学での博士論文提出を目標とする（2014 年 10 月論文提出予定、2015 年 3 月末日までに博士号取得予定）。博士論文では、戦後ドイツ連邦共和国（以下、ドイツ）における移民史をテーマに、1973〜1985 年の外国人政策を扱う　。その中でも、当時の外国人政策方針のうち、「統合 („Integration“)」と「制限 („Begrenzung“)」と並んで重要な政策方針であった、「帰国 („Rückkehrförderung“)」の側面に着目し、1983 年に施行された「帰国促進法 („Rückkehrförderungsgesetz“)」の形成過程を考察する。史料収集、史料分析、そして論文執筆が派遣期間中における研究活動の中心であった。また、これらの過程で必要な指導を、現地の受入指導教員であるウルリッヒ=ヘルベルト（Prof. Dr. Ulrich Herbert）教授より受けた。 これらの研究活動の傍ら、学期中は週に一度、所属研究室が主催するゼミに参加した。

■　研究成果

派遣期間中の主な研究活動は、史料収集、史料分析そして博士論文の執筆であった。はじめに、史料収集について報告する。刊行史料については、随時、フライブルク大学付属総合図書館および各学部の図書館、そしてドイツカリタス団体の図書館（フライブルク）にて収集した。とりわけ、1970/80 年代に刊行された新聞や雑誌の他、連邦労働省および内務省が作成した外国人雇用に関する報告書を中心に調べた。これらの史料調査の結果は、とりわけ博士論文第一章の前史部分（「1960 年代における外国人雇用政策とその実態 」）に反映させた（詳細については下記参照）。

未刊行史料については、コブレンツのドイツ連邦文書館 (Bundesarchiv Koblenz) にて収集した（2013 年 11 月後半、約 2 週間）。連邦文書館では、本派遣以前に何度か長期的な調査を行っており、その際に、史料の閲覧に必要な手続きは全て済ませてあった。また、目録も既に調べてあったため、当初に予定していたよりも比較的短い期間で、目的の史料を収集する事ができた。それまでの文書館調査では 、連邦労働省 (Bundesministerium für Arbeit und Sozialordnung) 、連邦労働庁 (Bundesanstalt für Arbeit)、内務省（Bundesministerium des Innern）の史料を中心に扱ってきた。今回の文書館調査では、これらの省庁の史料に加え、連邦経済協力省 (Bundesministerium für Wirtschaftliche Zusammenarbeit) の史料を重点的に調べた。経済協力省は、1960 年代後半から 70 年代初頭にかけて、発展途上国支援政策の側面から、当時の外国人政策に関わっていた―特に、トルコ出身外国人労働者の帰国後のトルコ社会への再編入について。その関係で経済協力省は連邦労働省とともに、70 年代後半の帰国促進政策案の制定に携わっていたのである。博士論文の考察対象時期からは若干外れてしまったが、経済協力省による 1960 年代の政策と 1970 年代末の帰国促進政策の連続性を考察する為、当文書館調査では 1965〜1985 年の史料を扱った。これらの史料の分析結果は今後、とりわけ第二章第三節に反映させる予定である。

次に、史料分析と博士論文執筆の成果について述べる。本派遣期間中には主に、第一章、第二章第一節と第二節（部分的）の本文執筆と、第二章第三節、第三章第一節・第二節にあたる部分の史料分析を行った。博士論文は、三章立てを予定している（執筆言語はドイツ語で、250 頁前後を想定）。今後の第二章三節以降の執筆過程で修正の必要が予想される第二章第一節・二節に対し、第一章については若干の手直しの必要性を除き、ひとまず完成している状態である 。第一章では前史として、1950 年代半ばから 1960 年代の外国人労働者雇用の歴史についてまとめた。その際、労働市場政策的観点のみならず、外国人（雇用）政策の内政および外政との関わりにも意識的に目を向け、多角的な視点からの外国人政策史を描いた。ここでの記述は、先行研究ならびに報告者が行った刊行史料の分析結果に依拠している。以下に、 特に参考となった先行研究の一例を挙げる: Karen Schönwälder: Einwanderung und ethnische Pluralität. Politische Entscheidungen und öffentliche Debatten in Großbritannien und der Bundesrepublik von den 1950er bis zu den 1970er Jahren, Essen 2001; Barbara Sonnenberger: Nationale Migrationspolitik und regionale Erfahrung. Die Anfänge der Arbeitsmigration in Südhessen 1955-1967, Darmstadt 2003; Johannes-Dieter Steinert: Migration und Politik. Westdeutschland – Europa – Übersee 1945-1961, Osnabrück 1995 。刊行史料としては主に、連邦庁による外国人雇用についての報告書および調査書を使用した。主なものとしては、Bundesanstalt für Arbeit (Hg.): Anwerbung, Vermittlung, Beschäftigung. Ausländischer Arbeitnehmer – Erfahrungsbericht が挙げられる。本報告書は、1961 年〜1973 年の期間中、原則として年に一度刊行連邦労働庁より刊行されていた。

第二章第一節では、1973 年 11 月 23 日に外国人の新規雇用が停止されるまでの過程、その「雇用停止 („Anwerbestopp“)」が与えた結果とその影響について、そして、1973 年 6 月 6 日の「強化プログラム（“Konsolidierungsprogramm“）」とその後の外国人政策の展開（〜1975 年）についての考察を行った。更に、連邦政府内における帰国促進政策案（1973〜75 年）、バーデン=ヴュルテンベルク州政府による帰国促進政策に関する法案と関連する議論（1975/76 年）についての考察を行った。これらの考察は、主に、連邦労働省、連邦内務省、そして外務省の史料に依る。外務省の史料は、本派遣以前に外務省の文書館 (Das Politische Archiv、ベルリン) にて収集したものである。

第二章第二節では、1975〜78 年を対象に、中長期的外国人政策コンセプトの制定過程における帰国促進政策についての考察を行った。その際、主に連邦労働省、内務省、そして経済協力省の史料を使用した。

第二章第三節では、1979 年「キューン覚え書き」に代表される、統合政策についての議論（1979/80 年）と 77 年の帰国促進政策を扱い、外国人政策におけるこれら二つの政策方針の関係性について考察を行った。本派遣期間中では、分析結果をまとめる段階に留まり、本文として執筆するまでには至らなかった。また、第三章については本派遣を開始する以前に、すでに分析とまとめを終えていた。従って、本派遣期間中には、不足する史料の補充とそれらの分析を行った。

■　今後の課題

研究を進める過程で、当初の予定に変更があり、博士論文の提出日を 2014 年 3 月末日から、約半年後の 10 月へと延期した。そのため、派遣終了後に再びドイツへ渡り、派遣期間中と同受入機関および同受入研究者のもとで、引き続き博士論文の執筆を行う。2014 年 10 月に東京外国語大学とフライブルク大学に博士論文を提出した後は、第一次審査通過後（同年 11 月末日までに終了予定）、年内に口頭試験を受ける予定である。これら一連の審査に通過後、それぞれの大学において博士号取得の手続きを行う。フライブルク大学での博士号取得にあたっては、とりわけ論文の出版が必要となるため、口頭試験に通過後、速やかに出版活動に勤しむ 。そして、2015 年 3 月末日に東京外国語大学博士課程卒業および博士号取得（学術）を予定している。

以上